

オムツ交換業務から“排泄ケア”へ 看護の質を高め業務改善をはかる



福島加代看護部長

排泄ケアは個性が高く、看護業務のなかでも多くの時間が割かれている。しかし、予防的な視点で排泄ケアを考えることで、スキントラブルの減少、業務の効率化、コストの適正化が可能となるという。埼玉よりい病院では、ユニ・チャームメンリッケ株式会社が提供するTENAを導入。患者の状態に合わせて選べる製品と、病院のニーズに応じた排泄ケアのノウハウの提供をきっかけに排泄ケアを見直したという。福島加代看護部長に、その効果などをうかがった。

多忙な業務のなかでも 患者本位の排泄ケアを実践したい

—TENA導入前の排泄ケアにはどのような課題がありましたか？

当院には急性期病棟、一般病棟、療養病棟があり、なかでも療養病棟にはオムツ交換が必要な高齢患者さんが多く入院しています。1日の看護業務に占めるオムツ交換の時間も長く、オムツのなかに何枚もパッドを重ね、汚れたら引き抜くことで交換回数を減らしていました。しかし、患者さんの身体は腰まわりだけがオムツで膨れ、季節に関係なく蒸れやすく、スキントラブルを起こしやすい状態にありました。

現場のスタッフは患者さんの尊厳を無視しているのではないかという思いをもちながらも、時間内に業務をこなさなくてはならないという現実とのあいだで、大きなジレンマをかかえていたと思います。そんなときに紹介されたのがTENAでした。1枚使いで交換回数も少なく、コストも抑えられるなどのコンセプトに共感し、これしかないという思いで導入を決めました。

—どのようなステップでTENAを導入したのでしょ

まずは同じ法人内の老人保健施設で導入しました。交換回数の減少やコストの適正化、業務の煩雑さの軽減などの効果が得られたため、排泄パターンが安定している療養病棟から導入を進めました。

TENA導入の目的は、交換回数の減少やコストの適正化だけではありません。スタッフの意識を変え、これまでのオムツ交換という業務を“排泄ケア”に引き上げることがとても重要だと考えていました。そのため、最初はトップダウンで、看護師長とともに現場への浸透をはかりました。また、TENAアドバイザー*には、スタッフ向けの講習会を開いてもらい、1枚使いでも漏れないオムツの正しい当て方などのレクチャーを受けました。

同時期に立ち上げた排泄委員会には、職種間の壁を取りはらおうと看護師と介護福祉士を入れて、各階から2～3名を選出しました。排泄委員会は月1回活動し、排泄ケアマニュアルの作成や改訂にも積極的に取り組んでいます。

さらに、実際にスタッフがオムツを当て、1度の排尿後でもさらっとした状態を保つことや、排尿量や回数の許容範囲を体験する試みも行いました。その後、現場で使っていくうちに、スタッフの排泄ケアに対する意識も変わっていき

排泄ケアの効果の実感が さらなる意識向上につながる

—現在の排泄ケアへの取り組みを教えてください。

患者さんの尿や便の量、回数、便の形状などを15の排泄パターンに分けてリストを作成し、アセスメントをもとに、使用するオムツを決めています。患者さんの状態に合わせたオムツ選びにより、1枚使いで対応でき、使用するオムツの枚数も大幅に削減されました。

オムツの交換頻度が減少したことで、看護師が交換機会をケアとして考えるようになり、交換時には皮膚をよく観察するようになりました。現在は誰がオムツ交換を行ったのかわかるようにチェックリストに名前を書き、交換の方法やケアの振り返りができるようにしています。

スキントラブルが起こりそうな患者さんに対しては、使用しているオムツの種類、当て方、交換の頻度などの原因を探ります。オムツの素材が問題でなければ、陰部洗浄の方法を変えるなど、さまざまな角度からスキントラブルを未然に防いでいます。

当院には、スキントラブルをかかえて入院する患者さんも多くいますが、いま

*TENAアドバイザー：各施設の継続的サポートを行う専門アドバイザー

埼玉よりい病院のTENA導入によるメリット

看護師の意識改革による排泄ケアの質の向上

① スキントラブルの減少

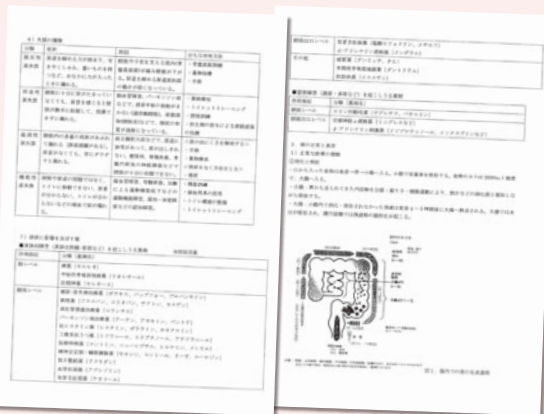
排泄パターンに応じたTENAのリストを作成。アセスメントをもとに適切なTENA製品を使用することで重ね使いによるオムツの蒸れやかぶれがなくなるとともに、交換回数が減少したことで、1度の交換時にていねいな観察が行われるようになった

② 全身状態の観察

排泄ケアへの取り組みが、スキントラブル減少という目に見える成果として現れたこと、交換回数の減少による業務効率化により、入浴介助を率先して行い、積極的に全身状態を観察するようになった

③ 排泄委員会でマニュアル作成

排泄委員会で「排泄ケアマニュアル」を作成。排泄ケアの意義や排泄物の見方、オムツの当て方の統一をはかっている



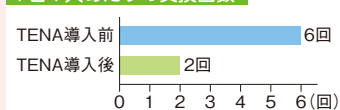
排泄ケアマニュアル(一部)

看護業務の効率化

① スキントラブル処置の時間減少

スキントラブルを未然に防ぐ態勢を整えることができ、スキントラブルの処置にかかっていた時間が不要に

1日1人あたりの交換回数

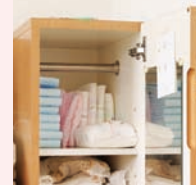


② オムツ交換回数の減少

以前は、尿や便もれを防ぐため、汚れたら交換していたが、患者の排泄パターンを考慮した交換回数に変更。1日平均6回のオムツ交換が、2回に減少

③ 使用するオムツカードを掲示

排泄パターンに応じて使用するオムツがひと目でわかるよう、患者のベッドサイドの棚の内側にカードを貼っている。1日に使用するオムツが減ったことで、棚も整理整頓できる



コストの適正化

① トータルコストの減少

TENA1枚あたりのコストは従来のオムツよりも高くなるが、1枚使いがができることで、廃棄料がTENA採用前に比べ46%減となった。トータルコストでは前年比19%減と大幅に削減した

円で、一部家族からも不満の声が聞かれたが、現在は1万円台で喜ばれている

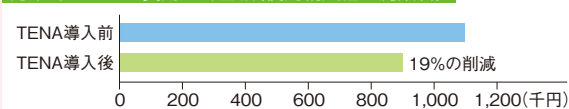
③ 看護師のコスト意識向上

TENA導入後、月1回の棚卸しを行い、毎月患者1人当たりのオムツのコストを算出している。看護師にもコスト意識が生まれ、現在ではオムツ以外の衛生材料も適正な使用が進められている

② 患者のオムツ代負担軽減

以前は患者のオムツ代負担が月2~3万

月平均のオムツ費用合計金額(使用納入価+廃棄料)



では、適切な排泄ケアによって退院までにスキントラブルを改善することが、スタッフ全員のテーマとなりました。半期ごとに提出してもらった個人目標シートにも、「マニュアルを遵守した排泄ケアの指導」「オムツの無駄をなくす」といった排泄ケアの向上を目標に掲げる看護師が出てきています。

また、ベルトタイプのTENAフレックスは装着しやすく、急性期病棟に入院している患者さんの排泄誘導に役立っています。これまでは、オムツがはずれてしまったり、トイレ内に多くのパッドを置く場所がなかったりと、非常に不便でしたが、排泄誘導をととしての早期離床や、パンツタイプへの早期移行につながっています。

——今後の課題を教えてください。

スキントラブル減少に向けた近隣の介護施設との連携や、排便の頻度や回数異なる患者さんに対して、適切な排便コントロールを行っていくことが今後の課題です。

TENAの導入により、確かにオムツ交換の回数は減少しましたが、看護業務が簡素化されたわけではありません。看護師一人ひとりの排泄ケアに対する意識が高まったことで、患者さんの入浴介助を率先して行うようになるなど、全身を観

察し、清潔を保つためのさまざまな取り組みに発展しているため、むしろ業務の幅は広がっているといえるでしょう。

しかし、患者さんのスキントラブルが減少したり、新たな課題に取り組みは始めるなど、看護の質が向上していることを実感できるため、看護師一人ひとりが、やりがいをもって排泄ケアに取り組んでいると感じます。今後も排泄ケアのさらなる質の向上、コストの適正化、業務効率の改善をはかっていきたいと考えています。

特定医療法人俊仁会埼玉よりい病院

〒369-1201 埼玉県大里郡寄居町用土395
TEL 048-579-2788
<http://www.shunjinkai.or.jp/saitamayorii/>

